

令和元年度 第1回島根県農政審議会 概要

日 時：令和元年9月4日(水)13:30～14:45

場 所：県庁本庁舎6階 604・605会議室

出席委員：井上委員、岩本委員、影山委員、佐々木委員、井尻委員、藤江委員、藤若委員、伊藤委員、高橋委員

県出席者：鈴木部長、栗原技監、西村次長、高橋参事ほか 関係職員

1 開会

2 農林水産部長あいさつ

- 県では、農業産出額100億円増という目標を掲げ、魅力ある収益性の高い農業の推進に取り組み、次の世代、若い担い手にバトンタッチできる島根県農業をつくって参りたい。
- 来年度からの新たな農業の基本計画を策定中であり、先程の考え方を計画に反映させ、県民の皆様を始め農業関係者の方々にメッセージとしてお伝えし、皆様の力を結集して農政推進にあたりたい。
- 委員の皆様方の意見を拝聴した上で計画策定等、農政推進に当たりたいので活発なご審議をお願いしたい。

3 議事

(1) 会長選任について

- ・委員互選により井上委員を会長に選出。井上会長が佐々木委員を会長代理に指名し承認。

(2) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画の実施状況と今後の方針について... 資料1

(3) 島根創生計画(素案)について... 資料2

- ・事務局(農林水産総務課)より一括して説明。

<説明を踏まえた各委員からの意見>

●●委員

- 有機農業に魅力を感じIターン者も増えているが、代々取り組んでいる生産者を含め生業として成立していない事例もあり、稼げる有機農業の確立に向け支援願いたい。
- 後継者不在で耕作放棄地の増加が大きな課題。一朝一夕にはいかないが、スマート農業・林業に実証試験等も含め積極的に取り組み願いたい。
- 鳥獣被害対策について、10年前から町で嘱託職員を配置し、地域ぐるみの取り組みが成果を上げている。ドローン活用も始めたが、これだけでは課題解決はできないので、今まで以上に全般的な支援対策の強化を願いたい。

●●委員

- J Aグループとしても、核として取り組むべきものは担い手対策と考える。若者から「農業は捨てたものではない」との声があり期待しているが、生業として成立するかを考えた場合、離農される方の資産が現有資産を活用した経営継承に力を入れ取り組むべきと考える。このことは、人口減少対策や農業生産の継続にも繋がる。

●●委員

- 子供たちの将来に繋げるため、農業体験を通じ喜びや農や食の大切さを伝えていきたい。生

きる力や将来の困難を乗り越える引き出しを増やせると感じている。

- 情報発信により海外含め遠くから来園いただいている。人が流れ回ることによって地域が活性化される。異業種との交流、農業の仲間と一緒に地域を盛り上げることが大事。一方、農業体験をさらに高いレベルで消費者に認知してもらい、付加価値として経営に還元されることも重要と考えている。

●●委員

- 隠岐ではU・Iターン者による牛飼いが各5~6名増えている。隠岐は畜産と水稲が中心となるため、若い者が就農できる様、引き続きの支援願いたい。

●●委員

- ブドウは、助成やアドバイス等恵まれており、若手生産者からも高評価。
- ブドウの新品種・系統の栽培に取り組むが、技術的な課題も残っている。ここをクリアすれば儲けも上がる。農業技術センターにはお世話にもなっているし期待している。
- 何をすることも情報が大事。若い人が地域でかわいがってもらえるよう、先人と情報交換できるしくみを行政やJAで各地域につくって欲しい。

●●委員

- 後継者不足・高齢化で、耕作放棄地も増えイノシシも近くまで来ており対応が大変。後継者不足の中で、農大生、新規就農者、U I ターン者等に助成することは良いことである。
- 農業教育では、先進的なスマート農業も良いが、まず農業に何が必要か、基本的な知識や技術習得に力を入れて欲しい。
- 新規就農者への支援も重要だが、ひとり立ち以降も見守るシステムも作って欲しい。
- 小さいころから農業に親しむシステムが必要。また高校生や中学生を対象とした体験も必要と思う。

●●委員

- 農業者は自分の経営に一生懸命で、情報発信や担い手育成になかなか力を注げない。しかし、地域おこし協力隊など若い方を協力者として育成・派遣してもらえると、同年代の橋渡し役として情報発信や新たな情報をもらえる。実際に、異業種を含めた若い世代の中で、もっと良くしたい、何かしたいと考えが芽生え始めている。
- 少子化で人材が減り、雇用労働量が不足している。外国人労働者も増えているが農業ではまだ少ないので橋渡しすること等もお願いしたい。人材がいてこそ初めて農業が成り立ち、新しい夢を描くこともできる。

●●委員

- 質を高めた米づくりは全国で戦うには厳しい面もある。今後は、多収穫米など別の意味での売れる米づくりの研究が必要。
- 稲作は儲けるためではなく守る農業だと思っている。地域のコメを買うことで地域の自然環境が守られていることを県としてよりPRしてほしい。
- 担い手の確保は大事なことであり、地域の農業者を巻き込んで新たな産地の核となる企業的経営体の誘致についても期待する。今年の取り組み成果は？
→今年度から、外部からの営業や相談への対応と、県外企業へのアプローチの2通りで取り組んでいる。国内で参入や規模や地域の拡大意向のある法人をピックアップし、絞り込んだ上でアプローチする予定である。(農業経営課)

●●委員

- 各委員から、「稼げる」、「担い手」、「定着」、「鳥獣被害対策」、「天候変動対応」、「生産環境の維持整備」等の意見があり、解決の切り口として「システム」、「体制づくり」、「橋渡し」が出た。大枠だけではなく、地域や経営体に寄り添った柔軟なサポートが求められている。
- 担い手不在集落や鳥獣被害、人口減少など逆風となる状況がある一方、活動成果として素晴らしい実績をあげている実態あり、「ここまでできてる」、「すごい」をもっとPRすべき。また、何で成功できたのかを検証することも必要である。
- 有機農業施策として、「産業型、産業として儲かる有機農業」と「暮らし方の有機農業」の2つ両方ともサポートしていく必要がある。全国に先駆けて支援し、素晴らしい先進的な取り組みもある。稼げるのももちろんだが、ただ稼ぐためにIターンしているわけではない。もちろんIターンして生業を成立させるためにはある程度の収入が必要だが、高い収入が必要であれば、わざわざ島根県で農業はされないかもしれない。島根で農業をすることでしか味わえない楽しさや、やりがい、生きがいを感じているから島根県に若い就農者が生まれているということがある。この両者を、数字で表せる部分と暮らしとか生業とかいかに豊かな所で成り立たせるか、という視点も今後も継続して両面でのサポートを県とJAにお願いしたい。

4 閉会挨拶

- 本日は非常に活発な議論、建設的なご意見をいただいた。個別の意見については執行部できっかりと参考とさせていただきます。
- 産業振興での議論は部内で進んでいる一方、特に、地域づくりや人と人との繋がりをどうするかといった部分に関してご意見をいただいた。最後は人と思っているが、県の職員が各地域での農業、あるいは暮らしづくりに貢献できるかと言うところを、ご意見を踏まえながら、もう少しよく考えたい。
- ご意見を参考とさせていただきます新しい計画に反映させていきたいので、引き続きのご指導お願いしたい。本日は大変ありがとうございました。

5 閉会

